

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【長崎県】

1 実践テーマ	【I・V】
2 実施対象者	<p>長与町立長与南小学校</p> <p>○ 陸上教室 5年生児童（112名）6年生児童（114名）保護者・地域（40名）</p> <p>○ 講演会 1～6年生全校児童（616名）保護者・地域（40名）</p>
3 展開の形式	<p>（1）学校における活動</p> <p>① 教科名（学級活動）</p> <p>② 行事名（創立30周年記念事業）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>（2）地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○ オリンピックの意義や歴史を学ぶことによって、スポーツについての理解を深め、スポーツを通して人とかかわることの楽しさを味わう。</p> <p>○ オリンピックに出場した人の生き方に触れることで、夢や憧れを抱き、志をもって生活をしようとする意欲を高める。</p> <p>○ オリンピックパラリンピック事業を通して、親子のかかわりをもたせ、児童の自尊感情を高める機会とする。</p>
5 取組内容	<p>（1）オリンピックパラリンピックへの理解を深める環境整備。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室にオリンピックパラリンピックの特設コーナーをつくる。 ・オリンピックパラリンピックに関する校内掲示物の整理。 ・ビデオ放送による来校するオリンピア高平慎土さんの紹介を行う。 <p>（2）児童による主体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会によるオリンピックパラリンピック事業の企画運営。 ・進行・風船飛ばし等の発案。 ・オリンピアを迎えるための自主的・主体的な準備。



(3) 学級活動による事前・事後指導

○ 事前指導

- ・オリンピックパラリンピックの意義について学ぶ。
- ・スポーツの良さを学ぶ。
- ・スポーツを通して人とかかわる良さについての理解を深める。

○ 事後指導

- ・学んだことを生活に生かすことを考える。
- ・夢をもつこと。
- ・仲良く遊ぶこと。
- ・自分や友達の良さに気づくこと。 等
- ・これまでの自主的・主体的な活動の振り返り、成果の確認。

(4) 親と子で夢を語り合う時間の創造。

保護者に子どもと共に、オリンピックパラリンピック事業に参加するよう呼びかけた。

さらに、記念事業の一つである風船飛ばしの際、風船につける手紙に、親子で夢を書くことをPTA発案で家庭に投げかけた。



<p>6 主な成果</p>	<p>児童の感想から 「ぼくは、この長与南小学校の30周年のときの6年生でよかった。高平慎士さんに教えていただいたような生き方をしたい。」 「家族で書いた手紙をつけて風船を飛ばすと、とてもきれいで、どこまで飛んだか心配だったけれど、種がいっぱい花をさかせてくれたら嬉しいです。」 保護者からも「子どもたちはとても素敵な経験ができた。」と喜びたくさんの声が届けられた。 オリンピックパラリンピック事業を通して、 ・スポーツが人をつなぐ良さを学び、普段の遊びの中に生かしていこうとする考えをもつことができた。 ・夢や憧れを大事にし、志をもって生活をしようという雰囲気は校内に出てきた（自尊感情の高まり）。 ・3年後に控えた東京オリンピックへの関心を高めることができた。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○ 長与南小学校創立30周年記念式典に合わせて、子どもたちに夢や憧れ志を抱かせる事業として取り入れた。 ○ オリンピックパラリンピック事業を保護者にも参加を呼びかけると共に、事業で高まった思いを、家庭につなげ、子どもの夢について語り合う場を設定した。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>陸上教室については5・6年生（226名）が参加し御指導をいただいた。子どもたちの発達の段階に応じた楽しいプログラムを企画していただき、とても楽しい教室となった。講演会については、1年生から6年生（616名）が参加した。発達の段階に差があることから、講師の先生も話の内容に苦慮されたのではないかと感じた。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>1度の事業で、子どもたちの内面に大きな変化が起こることを期待するのではなく、この事業を大事なきっかけとして、 ・オリンピックへの関心を高め、夢や憧れ志を抱かせる ・児童一人一人が、自尊感情を高める取り組みを行う。 ・家庭との連携をさらに図り、子どもの成長を共に喜び協力体制を充実させる。 ・今ある活動を、目的をもって、より良く充実させていく。 ことに継続的に取り組んでいきたいと考えている。</p>